

船舶事故等調査報告書

平成24年6月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第24号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成24年2月19日（日） 07時50分ごろ	
発生場所	静岡県静岡市清水港南東方沖 静岡市所在の清水灯台から真方位129° 1.7海里付近 （概位 北緯34° 59.5′ 東経138° 33.4′）	
事故等調査の経過	平成24年2月20日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	モーターボート 第三ダボハゼ丸、1.7トン 241-18598静岡、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、清水港南東方沖において主機をアイドルリング回転で中立運転して釣りを行っていたところ、平成24年2月19日07時50分ごろ船長が操舵室からの異臭に気付いた。</p> <p>船長は、操舵室内前方の引き戸を開け、物置の床板を外したところ、機関室に煙が充満しているのを認めて主機を停止した。</p> <p>本船は、海上保安庁に救助を要請し、来援した巡視船によって静岡市所在のマリーナへえい航された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：波高 約2.5m</p>	
その他の事項	<p>本船は、平成16年3月に進水したモーターボートであり、船尾寄りの甲板上に操舵室が、その前方に物置が、物置の下方に機関室が配置され、機関室の天井が物置の床になっており、取り外すことができるようになっていた。</p> <p>主機の排気は、排気タービン式過給機出口から、逆U字形状をした鋼管を経て海水混合器に至り、海水が注入されて温度が低下した気水混合体となり、機関室左舷後部から左舷船尾部に設けられた排気口を通して大気中に排出されるようになっていた。</p> <p>機関製造会社は、本インシデント後、排気管を点検した結果、逆U字状の排気管の海水混合器取り付け部分が割損していた。</p> <p>本船は、運転時間約300時間ごとに機関製造会社による点検が行われていた。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、清水港南東方沖において、主機をアイ</p>

		<p>ドリング回転の中立運転中、主機排気管が割損したことから、排気ガスが機関室内に充満し、主機の運転が継続できなくなったものと考えられる。</p> <p>主機排気管は、経年使用によって割損した可能性があると考えられるが、その要因を明らかにすることはできなかった。</p>
原因		<p>本インシデントは、本船が、清水港南東方沖において、主機をアイドル回転の中立運転中、主機排気管が割損したため、主機の運転が継続できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
参考		<p>本船は、同種インシデントの再発防止策として、次の対策を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主機の逆U字状の排気管を厚い材料で製造して取り付けた。